

人間

池田大作

Daisaku Ikeda

フェリックス・ウンガー

Felix Unger

主義の

旗を

寛容・慈悲・対話

東洋哲学研究所

人間

池田大作

Daisaku Ikeda

フェリックス・ウンガー

Felix Unger

主義の

旗を

寛容・慈悲・対話

東洋哲学研究所

人間主義の旗を―寛容・慈悲・対話

二〇〇七年（平成十九年）八月二十四日 第一刷発行
二〇〇七年（平成十九年）十二月十二日 第三刷発行

著者 池田大作

フェリックス・ウンガー

発行人 川田洋一

発行所 財団法人 東洋哲学研究所

〒一九二-〇〇〇三

東京都八王子市丹木町一-二三六

電話 〇四二（六九一）六五九一

振替 〇〇一三〇-七一-二二三九四

印刷・製本 共同印刷株式会社

© Daisaku Ikeda and Felix Unger, Printed in Japan

ISBN978-4-88596-008-6 C0030

ヨーロッパ科学芸術アカデミーとSGI

非暴力を「グローバルな倫理」に	13
「地上から悲慘の二字をなくしたい」	16
仏法が説く人間・自然・宇宙	21
師父の存在、両親の教え	23
アカデミー設立の動機	26
アカデミーが取り組むプロジェクト	29
哲学・宗教と自然科学との対話	32
人間は「共通点」のほうが多い	33
宗教間対話は「精神の戦い」	36
キリスト教と仏教の共通項	38
“9・11”直後に「四大宗教間対話」	40
「人間の救済」への協力	41
宗教間対話は「対話の文明」の先駆	43

宗教と寛容

寛容は「グローバル化時代に必要な徳」	55
資本主義という新宗教	58
「寛容憲章」と「SGI憲章」	61
「寛容の精神」の定義	65
一神教は非寛容か？	68
“他者を悪魔化する”危険	72
宗教と「寛容の危機」	75
世界宗教のもつ「寛容の伝統」	80
宗教と権力	83
「科学的思考」との調和が不可欠	89
「形式的な寛容」と「内実ある寛容」	94
“暴力と憎悪の連鎖”を断ちきるもの	96
「自由の像」とともに「責任の像」を	100

仏教の慈悲とキリスト教の愛

「慈悲の本義」——113

菩薩は「積極的寛容」を實踐——117

「生老病死」を見つめる人間——121

慈悲と愛が「生」を輝かせる——125

個人と社会を「癒す」宗教——127

ヨーロッパのトラウマ——ファシズムとスターリニズム——129

人々の記憶を消し去る全体主義——132

統一へ向かうヨーロッパ——133

カレルギー伯爵の構想——136

ヨーロッパ理念の柱「自由」——138

ベルリンの壁の崩壊とヨーロッパの再興——140

表現の自由に限界はあるか——144

「平和の文化」の創出に向けて

「物質主義」と「利己主義」の世界	159
法華経「三草二木の譬え」のイメージ	163
開かれた心——多様性の尊重	166
結ぶ力——「対話の実践」	168
永遠なる生命価値を——普遍性への洞察	171
「世界人権宣言」に込められた「平和への思い」	174
人間の内に「聖なるもの」を見る	177
“われ”の権利から“われわれ”の共生へ	180
「同苦の精神」と「悪への怒り」	183
「家庭」から始まる「平和」	186
女性の活躍が「精神的な文明」を	191
「人間教育」には何が必要か	195
幸福になる力を——創価教育の原点	199
「最大の教育環境」は教師自身	203

地球環境問題と教育

地球環境への「危機感」を共有	217
先進国の「権力主義的な態度」	220
「無信仰」が環境悪化の背景に	222
生命の“大いなる連関”	225
仏教とキリスト教——「自然の位置づけ」の違い	230
仏教とキリスト教——「地球への畏敬の念」で共通	233
「これから生まれてくる生命」の幸福	238
環境教育——まず「事実を知る」	240
科学技術をコントロールする「新しい倫理」	242
“畏敬と敬虔の感情”を育てる	245
“生命の魔性”が生んだ核兵器	248
「宇宙的に考え」「地球的に行動する」	252

健康・医学・生命倫理

「自分自身が自分の医師に」	269
人間は何歳まで生きられるか	271
心臓病を防ぐには	274
「生命の起源と進化」に新しい光	280
遺伝子技術——恩恵と危険	282
生殖医療と胚の利用	286
脳死・臓器移植の諸問題	289
「積極的安楽死」をめぐる	294
臨死体験が意味するもの	296
「生命の永遠性」	298
医療倫理——医師のあるべき姿とは	302
「患者の自己決定権」が拡大	306
医療事故を防ぐために	309

人間主義の旗を――寛容・慈悲・対話〔目次〕

ヨーロッパ科学芸術アカデミーとSGI

非暴力を「グローバルな倫理」に	13
「地上から悲慘の二字をなくしたい」	16
仏法が説く人間・自然・宇宙	21
師父の存在、両親の教え	23
アカデミー設立の動機	26
アカデミーが取り組むプロジェクト	29
哲学・宗教と自然科学との対話	32
人間は「共通点」のほうが多い	33
宗教間対話は「精神の戦い」	36
キリスト教と仏教の共通項	38
“9・11”直後に「四大宗教間対話」	40
「人間の救済」への協力	41
宗教間対話は「対話の文明」の先駆	43

宗教と寛容

寛容は「グローバル化時代に必要な徳」	55
資本主義という新宗教	58
「寛容憲章」と「SGI憲章」	61
「寛容の精神」の定義	65
一神教は非寛容か？	68
“他者を悪魔化する”危険	72
宗教と「寛容の危機」	75
世界宗教のもつ「寛容の伝統」	80
宗教と権力	83
「科学的思考」との調和が不可欠	89
「形式的な寛容」と「内実ある寛容」	94
“暴力と憎悪の連鎖”を断ちきるもの	96
「自由の像」とともに「責任の像」を	100

仏教の慈悲とキリスト教の愛

「慈悲の本義」——113

菩薩は「積極的寛容」を實踐——117

「生老病死」を見つめる人間——121

慈悲と愛が「生」を輝かせる——125

個人と社会を「癒す」宗教——127

ヨーロッパのトラウマ——ファシズムとスターリニズム——129

人々の記憶を消し去る全体主義——132

統一へ向かうヨーロッパ——133

カレルギー伯爵の構想——136

ヨーロッパ理念の柱「自由」——138

ベルリンの壁の崩壊とヨーロッパの再興——140

表現の自由に限界はあるか——144

「平和の文化」の創出に向けて

「物質主義」と「利己主義」の世界 159

法華経「三草二木の譬え」のイメージ 163

開かれた心——多様性の尊重 166

結ぶ力——「対話の実践」 168

永遠なる生命価値を——普遍性への洞察 171

「世界人権宣言」に込められた「平和への思い」 174

人間の内に「聖なるもの」を見る 177

“われ”の権利から“われわれ”の共生へ 180

「同苦の精神」と「悪への怒り」 183

「家庭」から始まる「平和」 186

女性の活躍が「精神的な文明」を 191

「人間教育」には何が必要か 195

幸福になる力を——創価教育の原点 199

「最大の教育環境」は教師自身 203

地球環境問題と教育

地球環境への「危機感」を共有	217
先進国の「権力主義的な態度」	220
「無信仰」が環境悪化の背景に	222
生命の“大いなる連関”	225
仏教とキリスト教——「自然の位置づけ」の違い	230
仏教とキリスト教——「地球への畏敬の念」で共通	233
「これから生まれてくる生命」の幸福	238
環境教育——まず「事実を知る」	240
科学技術をコントロールする「新しい倫理」	242
“畏敬と敬虔の感情”を育てる	245
“生命の魔性”が生んだ核兵器	248
「宇宙的に考え」「地球的に行動する」	252

健康・医学・生命倫理

「自分自身が自分の医師に」	269
人間は何歳まで生きられるか	271
心臓病を防ぐには	274
「生命の起源と進化」に新しい光	280
遺伝子技術——恩恵と危険	282
生殖医療と胚の利用	286
脳死・臓器移植の諸問題	289
「積極的安楽死」をめぐる	294
臨死体験が意味するもの	296
「生命の永遠性」	298
医療倫理——医師のあるべき姿とは	302
「患者の自己決定権」が拡大	306
医療事故を防ぐために	309



池田大作（いけだ だいさく）

一九二八年、東京生まれ。創価学会名誉会長。創価学会インタナショナル（SGI）会長。東洋哲学研究所創立者。創価大学、アメリカ創価大学、創価学園等の教育機関、民主音楽協会、東京富士美術館等の文化機関、戸田記念国際平和研究所、ボストン二十一世紀センター等の学術・平和機関を設立。

『人間革命』（全十二巻）『新・人間革命』（連載中）『私の世界交友録』『私の人間学』など著作多数。また世界各国の識者・指導者と対話を重ね、『二十一世紀への対話』（A・トインビー）、『二十世紀の精神の教訓』（M・S・ゴルバチョフ）、『インドの精神——仏教とヒンズー教』（ベッド・P・ナンド）など四十点以上の対談集が発刊されている。

モスクワ大学、グラスゴー大学、北京大学等、世界の大学・学術機関から二百をこえる名誉博士・名誉教授等の称号を受けている。